

第三回俳句バトル結果発表

お題「月」
「夕」

WEBでも見れる!



皆様、多数のご応募ありがとうございました。約50句もの応募ありがとくに多いです。楽しく拝見させていただきました。もつと盛り上げて、師匠をお呼びできるまでつ頑張りませう。

社長とも相談の上、特選を選ばせていただきました。

現代俳句協会青年部 一虎杖同人 安部拓朗(奈月)

特選(社長賞)

短冊に

吾子の噛み跡

天の川



句評

私には子どもはおりませんが、欲しいなーと思わせる作品でした。子どもがいる毎日、きつと日常が非日常で、非日常もまた日常に落ち着くのです。短冊に願ひ事を書くということさえ、分からないほどの幼さかと思えます。噛むという行為は子どもの健やかな成長のメタファーにも読み取れます。最後の天の川の広がりも上手でした。微頭微尾、モノに語らせています。

施工管理部 坂本紀一

2級

並選

夕焼けて

ワクチン接種の腕に熱

施工管理部 坂本紀一

2級

句評

時事ネタは俳句の醍醐味でもあります。上手な切り取り方でした。中8を感じさせないリズムの良さはセンスを感じます。唯一残念だったのは季語の活かし方です。夕焼けの「焼」のイメージと熱の近さ、ここで曖昧にながす、切れをもつけた方が良かったでしょう。シンプルに夏の月くらいでも良かったかも。

4級

針結ぶ

月に感謝の防波堤

びりり 横尾光生

1級

句評

釣りの最中でしょうか。私は釣りをたしなまないのに、面白く拝見しております。やはり実感が強い、経験に裏打ちされた作品は浮かび上がってきます。針のアップから始まるのも映像効果としておもしろいでしょう。唯一残念だったのは、感謝を言ってしまう方がもつと良い作品になりました。

あまりにも賞

晩ご飯

夕方からのお楽しみ

道路管路営業部 宇佐川剛

5級

句評

社長と相談の上、新しい賞を設けました！俳句らしくない、新しい表現の作品を表彰いたします。みんなが共感できる、夕暮れの心情です！



奈月の一句

原爆忌朝の微熱を持て余す 奈月

今年はずっとワクチン接種日が原爆忌に重なりました。多くの若者にとって変わらぬ日常とした傷跡。普段は意識もしないのかも知れません。それでも多くの犠牲に思いをはせる8月であってほしいと思います。総務をはじめとする、ワクチン接種の為に尽力いただいた皆さんの妻さまもあつと間に忘れられていくのかも知れません。それでも、確かに救われた人がいて、感謝している人がいます。願うことも、偉ぶることもなく全力を尽くしていただいた皆様への感謝の意を込めて。

今回ご応募いただきましたが、残念ながら選外となった句をご紹介します。(複数ご応募の方は、上位の段級位となります)次回の参加もお待ちしております!

5級

十五夜に 若干後悔 副反応

管理本部 早瀬啓真

5級

「句評」感情の言葉を俳句に入れるのは高等テクニックになります。中7を直せば良くなります。

池の月 石投げて消す 吾子にコラ

びりり 横尾光生

1級

「句評」語順と「コラ」をうまくすれば題材の良いものを切り取っています。要素が多いので、吾子が消してしまつた目だけに焦点を絞れば良くなります。

夜涼み 水辺に映る 月光り

びりり 岡本伸行

5級

「句評」季語が2つある「季重なり」という状態です。水辺や水の描写をしてみましょう。

満月に さそわれ散歩 影ふたつ

びりり 横尾光生

1級

「句評」「さそわれ」というのは擬人法です。擬人法は高等テクニックになります。避けた方が無難です。

ペガススが 夜空を駆ける 秋の星

施工管理部 東谷伸一

5級

「句評」ペガサス座が秋の星座ですから、季語は変えた方が良いでしょう。

夕立や 心安らぐ 腕の腫れ

管理本部 筒井杏子

5級

「句評」感情の言葉を俳句に入れるには高等テクニックになります。中7を直せば良くなります。

七夕を 真似て待ち会う 橋の上

施工管理部 東谷伸一

5級

「句評」中7で、「まの韻を踏もうとしたのは良いのですが、俳句は動詞が多いのを嫌います。「真似て」を外した方が良いでしょう。

緩やかに登るは日の丸か満月か。

管理本部 早瀬啓真

5級

「句評」〇のつながりを見だしてくれました。ただし、満月を日の丸と見なすのは、よくあるので、別のモノにたえましょう。

いかり星 100年前の 輝き観

施工管理部 東谷伸一

5級

「句評」中7以降の表現が、理屈が勝ちすぎました。光年を正しく理解してはいるのですが…

夕立に あの頃懐かし 透けたシャツ

管理本部 早瀬啓真

5級

「句評」懐古主義は共感を得られやすいですが、中7はどちらかからいでしょう。夕立やあの日のシャツも透けてをくらいでいましょう。

幕引き後 月夜に光る 江戸五輪

管理本部 筒井杏子

5級

「句評」イメージの世界だと思えますが、この内容なら、具体的なモノが見えた方が良いでしょう。国立競技場とか旗とか。

5級

夕刻の 手塩に掛けた 菊花展

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】中7が説明になってしまっただけはおもしろくありません。手塩に掛けているからこそ菊花展に出ているのでしよう。

絵葉書のローヌ川に映える星月夜

施工管理部 坂本紀一 2級

【句評】綺麗な絵葉書なんです。残念なのは中八になってしまひ、リズムが崩れてしまったことです。

夕日落ち 浮かぶ恐怖の 菊人形

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】動詞が選択ミスでした。「浮かび上がる」と「浮かぶ」のは別です。ポルターガイストかと思えます。「恐怖」と言わずして伝えましょう。

暁に 流れる瀬戸の 天の川

施工管理部 坂本紀一 2級

【句評】「荒海や佐渡に横たふ天の河」を想起しました。「流れる」があることで、映像がわかりにくくなってしまいました。

夕立後の 暮色かかった 空の色

信藤七海 5級

【句評】空の色の何ともいえない美しさを表現したかったのでしょうか。夕立雲が色に染まっているくらいの方が良かったですね。

夕映えの 葉の上行く 青虫の青

施工管理部 坂本紀一 2級

【句評】いろいろと工夫していただきましたが、裏目に出ってしまったようです。こういう場合中7は音数を守る方がリズムが整います。

さあ来いと 竿先集中 夕まずめ

横尾光生 1級

【句評】夕まずめという言葉を知っているだけならばらしいと思います。作品としては、夕まずめからはじめ、竿先を凝視するくらいで良かったと思います。

夕立で 西空開け 果実色

岡本伸行 5級

【句評】俳句では「で」という助詞を嫌う傾向にあります。果実色も、季重なりを避けるための工夫でしょうかやけてしまいました。

夕星を 見付け指差す 童達

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】俳句では、動詞が複数出くることが嫌われやすい傾向にあります。夕星を指す子と季語の取り合わせが美しいかもしれませんが、

夕時に 五輪を耳に 家事育児

びるり 大平誠 5級

【句評】季語を入れ込んでみました。「立秋の首見五輪を流しつ」くらいでしようか。

テレビごし 五輪の閉会 涼む夕

びるり 久保田芳典 5級

【句評】このままでは「3段切れ」といふつ切れになってしまいます。「テレビ越しの五輪閉会夕涼み」くらいでしようか。

モチつきの 姿かくす 朧雲

びるり 高田英治 5級

【句評】朧は春の季語です。ちよとと季節がずれてしまいました。

秋夕焼だんじり二年蔵の中

ボギー 4級

【句評】テーマは悪くないのですが、「だんじり」を季語とする歳時記も増えています。「祭」傍題ですね。「3段切れ」を直せば特選。「だんじり」も叫びも蔵に閉ざしけりくらいでしようか。

夏の夜 冷めた工場に 浮かぶ月

脇坂浩樹 5級

【句評】季語が多すぎます。全部まとめて、月涼しくらいにして、もつと工場を描写してみましょう。

夕暮れに 焚く迎え火や にぎわう庭

多恵子 5級

【句評】前半が説明になってしまっています。「迎え火」という季語も中に、夕暮れや焚くという情報は入っています。

芋の露 集め童等 願い書く

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】これも、「芋の露」という季語の説明で終わってしまった作品です。どんな願いかを具体化するだけで格段に良くなります。

青空が 夕日に溶ける 秋の空

びるり 中田琴音 5級

【句評】動詞の選択が失敗だったかも知れません。主体を夕焼にして「青空の端」は溶かして「秋夕焼」くらいでしようか。

三月月の したを歩く 犬と2人

びるり 宮田佑亮 5級

【句評】中7が説明になってしまっています。三月月やと切つて、犬の様子を描写して散歩だと伝えましょう。

淡月に 花を咲かせる 朧月

びるり 信藤七海 5級

【句評】他にもありましたが、朧は春の季語なんです。比喩としても花もよくある描写なので、オリジナルを目指しましょう。

星祭り デート下から 見守りて

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】下からなので織姫たちのことでしょうか？ちよととわかりにく書き方でした。何が私たちのデートを、とも読めます。

孫たちと 揃えた浴衣で 月を観る

水本俊二 5級

【句評】浴衣も親月も季語なので季重なりになっています。浴衣ではないお揃いのアイテムなら面白いでしょう。

夕陽背に 三年越しの 栗拾い

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】中7が説明に終わっています。栗栗三年は広く知られていますから、省略しても伝わります。

神秘的 だるま夕日に 手を合わす

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】上7が説明的でした。ここに季語を持てきましょう。秋風くらいでも植物でもいいでしょう。

月まつぶたつ 切りさく閃光 流れ星

多恵子 5級

【句評】語順は工夫があるのですが、残念なことに「流れ星」も季語なので季重なりなのです。

夕焼を 背負つてせまる お城山

びるり 横尾光生 1級

【句評】中7の動詞が必要なかったですね。夕焼けとお城山だけで十分に迫力は伝わります。その分、お城山の描写を工夫してきましょう。

菊の露 星の如くに 輝きて

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】いわゆる「こく俳句」では意外な比喩のほうが面白くなります。みんなが考え付かない比喩をお待ちしています。

夕涼み ぶたの口から 煙立つ

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】蚊取り線香でしょうか。この書き方なら、生きているぶたが煙を吐いているようにも取れます。

秋宵や 空に届きし プラナの棟

施工管理部 坂本紀一 2級

【句評】恒例の海外詠ですが、今回は秋らしさが伝わりませんでした。プラナの「塔」はキルギスの世界遺産ですが、中7の書き方が少し安易だったかと思えます。別の動詞ならあるいは…

影ふたつ夕の爽領穂を撫でる 道路管路事業本部 山中剛志 4級

【句評】「3段切れ」になってしまひ残念です。「爽領や穂の一言に波打ちぬ」くらいでしようか。

選外

令和月 昔も今も 同じ色 道路管路営業部 宇佐川剛 5級

【句評】変わらないものと思うというセオリーですが、季語が変わらないのでは当たり前になってしまひます。

夕ぐれが 一時のびる 夕涼み

びるり 高田英治 5級

【句評】中7の感覚は良いものがあります。しかし、季語の中にも「夕」があり、重複しています。

富裕層 食卓飾る 富有柿

施工管理部 東谷伸一 5級

【句評】これを、「顔を踏んでいる」ところか「親父キヤグ」ところか、後者だと思えます。

汗流し ビール片手に 夏の月

びるり 石原充洋

【句評】おいしそうではあるのですが「汗」「ビール」「夏の月」どれも季語なのです。

夕焼けに 初恋の顔 ダブルとは

びるり 横尾光生 1級

【句評】下7の意味が理解できませんでした。出会ったら教えてください。

次回開催は年明けを予定しています！

社内報にてお題を発表しますので、ぜひご参加ください。併号でのご応募も大歓迎！その際は、本名も記入してご応募ください。